

よしだ

文化会館だより

No. 98
2009. 1. 1



ファミリー人形劇「はこ」 大盛況のうち終了

11月30日、人権週間（12月4日～10日）にちなんで平成20年度笠岡市人権問題講演会が、笠岡市民会館・大ホールで開催され、約300人が参加しました。会場では、ろう者と聴者が共につくる日本唯一の人形劇グループ「デフ・パペットシアター・ひとみ」による「はこ」が熱演されました。

「デフ・パペットシアター・ひとみ」は、「ひよっこりひよたん島」でおなじみの人形劇団ひとみ座を母体として1980年結成、現在は世界中に活動の場を広げており、この公演は平成20年度文化庁「舞台芸術の魅力発見事業」に指定されています。

物語は舞台に並んだ多くの「はこ」から始まり、セリフは一切なく、ほとんど「無音」で表現されました。文明に大きく左右されながらも、たくましく生きる家族の絆を描いたドラマを熱心に見入る子どもたちの姿が多く見られました。

公演後には、市民のみなさんと「ひとみ」のみなさんで記念撮影をする心温まる光景も見られました。

また、ホワイエでは、笠岡市内の全ての小学校が参加した「人権の花」写真展や、第10回笠岡市人権フオートコンテストの入賞作品展が開催されました。



▲言葉に頼らず独自の表現技術を駆使する「ひとみ」のみなさん

参加者からの声

- ・箱一つでなんでも表現してしまう表現力すばらしいです！感動しました。人形とは思えない表情豊かな表現に感激しました。
- ・いろんな箱で人生を表現され、すばらしかった。このような劇を初めて見ました。
- ・セリフのない舞台劇に不思議な居心地の良さを感じました。
- ・子どもたちも大人も楽しめました。子どもたちの笑い声が聞こえ大変よかったです。



▲記念撮影をする市民のみなさんと「ひとみ」のみなさん